

展覧会情報

映画をめぐる美術——マルセル・ブロータースから始める

Reading Cinema, Finding Words: Art after Marcel Broodthaers 2013年9月7(土) — 10月27日(日)

詩人として出発したベルギー出身の芸術家マルセル・ブロータース(1924-1976)は、1964年頃から美術の領域に身を置き、言語とイメージの関係を扱ったオブジェや写真・短編映画の制作、また公開書簡や出版などの著述活動、さらに美術を取り巻く権威や制度を批判的に検証する虚構性に満ちたプロジェクトなど幅広い創作活動を展開し、戦後美術の転換期に大きな足跡を残しました。

仮面を付けたブロータースが手にしている書物『映画の発明 1832-1897』(ジョルジュ・サドウル著、1946)が示すように、ブロータースにとって映画は重要な表現方法のひとつであり考察対象でした。特にブロータースが映画を「書く」ための方法として位置づけたことは、これまで「見る」ことへ主に意識を傾けてきた映像表現に対して「読む」という視点を改めて強調した、と言えるでしょう。時にユーモアを交えながら言語とイメージの関係を根源的に問うブロータースの実践は、後進の世代の美術家たちに大きな影響を与えて続けており、特に写真やビデオ、インスタレーションの手法を用いた表現が急増した1990年代以降の美術動向を理解する上でも、有効な手がかりとなるように思えます。

主に1990年代後半以降、映像表現を手がける美術家たちに見出せるひとつの傾向として、映画の技術や理論、歴史に高い関心を持ち、過去の映画作品をさまざまな形で参照・解説するという創作手法が挙げられます。こうした傾向を視野に入れつつ、今回の展覧会では、ブロータースによる映画に関するテキストやプロジェクトを参照軸とし、そこから引き出される5つのテーマ——「Still / Moving」「音声と字幕」「アーカイヴ」「参照・引用」「映画のある場」——に即して、国際的に活躍する美術家13名のフィルム、写真、ビデオ、インスタレーション等の作品により、映画をめぐる美術家の多様な実践を紹介します。



左下: ドミニク・ゴンザレス=フォルステル 《2058 (図書目録)》2012年 © the artist, Photo: Andrea Rossetti

右上: ビエール・ユイグ 《第三の記憶》1999年 © Pierre Huyghe

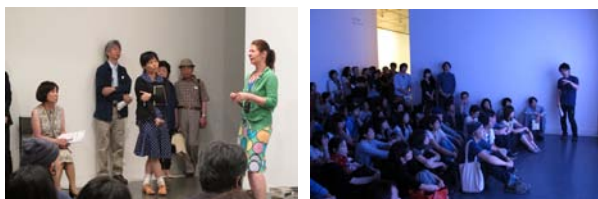
関連イベント

連続アーティスト・トーク ※このイベントは終了しました

ドミニク・ゴンザレス=フォルステル、田中功起、アナ・トーフ (出品作家)

日時: 2013年9月7日(土) 午後2時~3時30分

参加人数: 70名



アーティスト・トークの様子

「映画をめぐる美術」展 友の会特別解説会

日時: 2013年10月26日(土)

午前11時~12時頃

集合場所: 当館1階ロビー

集合時間: 午前10時55分

募集人数: 先着10名

解説者: 牧口千夏 (当館研究員)

申し込み先: 京都国立近代美術館 事業係

電話: 075-761-4115

(月曜から金曜まで午前10時~午後5時)

※お申込の際は、お名前・会員番号をお伝えください。

金曜夜の上映プログラム

特集: 田中功起 ※このイベントは終了しました

2013年9月13日(金) 午後7時より午後8時まで

特集: ドミニク・ゴンザレス=フォルステル

2013年9月27日(金) 午後7時より午後8時まで

特集: ミン・ウォン

2013年10月11日(金) 午後7時より午後8時30分まで

会場: 京都国立近代美術館1階講堂

定員: 100名、要観覧券

※聴講無料、当日午後5時から受付にて整理券配布



「映画をめぐる美術」展 注目の作品



アンリ・サラ 《インテルヴィスタ》

1998年 © Anri Sala

ある日作者が見つけたフィルムを巡って、その自身の真相を知るために作者が奔走する様子をえがいたドキュメンタリー。若かりし頃の作者の母親をとらえたフィルムには音声はなく、作者は様々な手段で母が語ったことを探し求めます。作品は、その様子を母子の平凡な日常のやりとりとともに映し出しています。アルバニアの政治的背景が重要な要素となるこの作品は、歴史に関心のある方にとっても興味深い作品かもしれません。

(友の会 NEWS 編集者・朴)

平成 25 年度 第 3 回 コレクション・ギャラリー展

9 月 7 日 (土) ~ 10 月 27 日 (日)

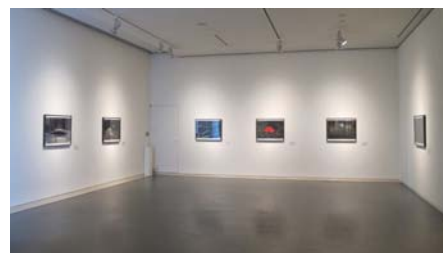
今年度第 3 回コレクション・ギャラリー展は下記のテーマで全 99 点を展示しています。

- ・ クルト・シュヴィッターズとシュルレアリスム—マルセル・ブロータースからのオマージュ
- ・ 開館 50 周年記念所蔵名品選—戦後京都の日本画
- ・ 現代美術セレクション I : 写真による表現
- ・ 伊砂利彦の染色
- ・ 日本近代洋画の名品Ⅲ—昭和戦中期の前衛絵画
- ・ 現代美術セレクション II : 操作された現実—ローター・パウムガルテン
- ・ 屋外彫刻

今年度 3 回目となるコレクション・ギャラリーでは、前回に引きつづき開館 50 周年を記念して日本画ならびに洋画の名品をはじめ、3 階の企画展会場で開催中の「映画をめぐる美術」展の関連でクルト・シュヴィッターズのコラージュ作品と、ダダ・シュルレアリスムの資料を展示しております。同じく企画展関連で、二つの現代美術セレクションの特集展示も行っております。工芸は川勝コレクションから河井寛次郎の代表作、没後 20 年をむかえた加守田章二の作品、京都の型染を代表する伊砂利彦の屏風やパネルの作品を一挙に展示しております。



日本画コーナー
開館 50 周年記念所蔵名品選—戦後京都の日本画



現代美術セレクション II
操作された現実—ローター・パウムガルテン

NFC 所蔵作品選集 MoMAK Films 2013

10 月：美術が読み解く映画たち

「映画をめぐる美術」展の関連企画として、ブロータースおよび出展アーティストたちが作品の中で言及している映画を取り上げます。1 日目は無声映画期において、突出した表現の密度を示したドライヤーの名作と、喜劇王チャップリン、キートンによる自己言及的なスラップスティック・コメディ、2 日目は比類ない作家性を持ち、後進の映画作家を刺激し続けるヒッチコックとアントニオニーの代表作を上映します。

10 月 26 日 (土)

2 時 ~ 3 時 31 分

- ・ 『裁かるゝジャンヌ』 1928 年 (フランス)

3 時 50 分 ~ 5 時 14 分

- ・ 『チャップリンの替え玉』 1916 年 (アメリカ)
- ・ 『チャップリンの楽屋騒動』 1916 年 (アメリカ)
- ・ 『キートンの探偵学入門』 1924 年 (アメリカ)

10 月 27 日 (日)

2 時 ~ 4 時 9 分

- ・ 『レベッカ』 1940 年 (アメリカ)

4 時 20 分 ~ 6 時 21 分

- ・ 『夜』 1960 年 (イタリア)

1 プログラム：500 円 (当日券のみ)

会場：当館一階講堂

チケットは会場入口にて販売、開演 30 分前より販売開始

各回入替制・定員 100 名

企画協力：川村健一郎・富田美香

(共に立命館大学映像学部准教授)

次回展覧会

皇室の名品—近代日本美術の粹

Treasures of the Imperial Collections - The Quintessence of Modern Japanese Art

2013 年 11 月 9 日 (土) — 2014 年 1 月 13 日 (月・祝)

前期：11 月 9 日 ~ 12 月 8 日、後期：12 月 11 日 ~ 2014 年 1 月 13 日

京都国立近代美術館のみで開催される本展は、代々の皇室に引き継がれてきた美術品群が国に寄贈されたことを受け、平成 5 (1993) 年に開館した宮内庁三の丸尚蔵館が所蔵する美術工芸品の中から、選りすぐった近代以降の作品約 180 点を六つの章に分け、体系的に紹介するものです。日本画の横山大観 (1868-1958)、竹内栖鳳 (1864-1942)、油彩画の高橋由一 (1828-1894)、彫刻の高村光雲 (1852-1934)、七宝の並河靖之 (1845-1927)、金工の海野勝珉 (1844-1915) 等の作品が出品される予定です。これらの作品は明治 21 (1888) 年に竣工した明治宮殿に調度として飾られたもの、御下命により制作されたもの、展覧会で買い上げになられたもの、御即位等皇室の御慶事に各方面から献上されたもの、御慶事の儀式で使用されたものや御肖像で、明治・大正・昭和と大切に受け継がれてきた、まさに近代日本美術の「粹 (すい)」と言える作品群です。

また、本年 12 月に天皇陛下は傘寿を迎えられます。その佳き年と、京都国立近代美術館の開館 50 周年、宮内庁三の丸尚蔵館の開館 20 周年が重なりました。各館の記念行事の一つとして、皇室とは特別にゆかりの深い京都の地で、皇室が護り育てこられた近代日本美術の粹を体系的に広くご観覧いただけるまたとない機会となるでしょう。日本近代美術史に燦然と輝く至高の作品群が初めて一堂に展覧される本展をどうぞお見逃しなく。

特設サイト <http://k-meihin.exhn.jp/>



竹内栖鳳 《大正度主基地方民俗歌屏風》 大正 4 (1915) 年 宮内庁三の丸尚蔵館所蔵 (前期のみ)

京都国立近代美術館賛助会員・一般会員

当館は下記、賛助会員の皆様からご支援・ご支持をいただいております。

